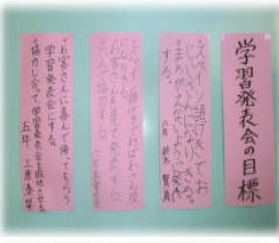


平成 28 (2016) 年 10 月 27 日
在ベネズエラ日本国大使館
附属カラカス日本人学校発行

目指す児童生徒像 よく考える子 思いやりのある子 進んでやりぬく子 強くたくましい子 日本もベネズエラもよく知る子

今年の学習発表会も見どころ、聴きどころ、笑いどころ、感動どころ…が、いっぱいです！
10月29日は、ぜひお誘い合わせの上、カラカス日本人学校にお越し下さい！
■■最高のものを見せたい！ 学習発表会の練習、準備に熱が入っています！■■



10月29日(土)の学習発表会に向けて、練習にも準備にも熱が入っています。全校スペイン語劇では今年日本の代表的な民話「かさじぞう」を演じます。また、合奏では日本の「わらべうたメドレー」を演奏します。日本語教室の生徒さんたちも「日本の紹介」



や「たぬきの糸車」に挑戦します。カラカス日本人学校の体育館に、さわやかな「和」の風が吹きます。

(写真：上段左から①②「かさじぞう」の練習 ③合奏の練習 ④児童の目標 下段左から⑤挨拶の練習 ⑥出演する日本語教室の生徒)



■■学習発表会では、熱く勇壮に、カラカス太鼓を演奏します！■■

毎年新メンバーを加え、パートを入れ替え、曲の構想をふくらませ、新しい曲や音に挑戦し続けているのが私たちの「カラカス太鼓」です。選抜ではなく、児童も先生も従業員も、日本人もベネズエラ人もみんなが参加しての曲作り・音作りは、まさに「和」(日本の和、人と人との和)そのものです。今年の学習発表会では、「アビラのひびき」と「海をこえて～Las Olas～」の二曲を16人のオールキャストで、熱く勇壮に、演奏します！

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その134)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 29

待望の全日制日本人学校が昭和50年(1975)11月1日に開校された。全世界でおよそ40番目、南米ではサンパウロ、ブエノスアイレス、リマ、リオデジャネイロに次いで5番目の開校となった。(現在は世界に94校の全日制日本人学校がある)

■カラカス日本人学校開校の精神■ 初代理事長 杉村栄一氏(日商岩井)は、開校の精神について次のように述べられている。

「この学校は、駐在員の子弟のみのものでなく、広くベネズエラの日本人社会のものであり、これを基にして、今後、日本語学校・日本文化紹介・ベネズエラ文化との交流というように発展していくべきものである。この為には、『我々のものである』という意識に立って全員で盛り立て育てていくことが肝要である。」

これが41年前のカラカス日本人学校開校の精神です。この精神の下、多くの児童生徒がこの学び舎(まなびや)で育っていくことになるのです。

■開校式はこうして行われた■ 昭和50年11月1日、輝くばかりの青空の下、待望久しかったカラカス日本人学校開校式が挙行政された。参加者約200名、どの顔も晴れ晴れしく、喜々としていた。設立準備に奔走してきた人の中には、涙をそっとぬぐう姿も見られた。臨時校長杉原真一大使、元大使館勤務の橋本貞夫教頭以下10名の教員と、児童生徒38名による出発であった。日本人学校が開校した場所は、「パージェ・フレスコ」と呼ばれる地で、カラカス市東部からペタール地区を抜け、更に南東へ下りたあたりに位置していた。自然に恵まれ、広々とした所にカラカス日本人学校は開校したのである。(パージェ・フレスコの校舎) つづく

